

2013年フィリピン台風30号ハイエンの被災・復興状況報告  
-2014年12月時点におけるセブ島北部の住宅再建と台風ルビー被害について-  
Report on Damage and Recovery Process after the 2013 Typhoon Haiyan  
: The Situation of Housing Recovery Process and Damage by Typhoon Ruby on North  
of Cebu in Philippine as of December 2014

○杉安 和也<sup>1</sup>, 花岡和聖<sup>1</sup>, 村尾 修<sup>1</sup>  
Kazuya SUGIYASU<sup>1</sup>, Kazumasa HANAOKA<sup>1</sup> and Osamu MURAO<sup>1</sup>

<sup>1</sup>東北大学 災害科学国際研究所

International Research Institute of Disaster Science, Tohoku University

Leyte, Samar and Cebu island got a serious damage by the 2013 Typhoon Haiyan(Yolanda). As a 2014, Government of Philippine published Recovery plan “Ray2” and decided to process of recovery. The authors conducted field survey due to research building collapse and housing recovery situation in December 2014. This paper report the situation of housing recovery process in North of Cebu, Philippine. Especially, In addition, The author focused on the impact by the 2014 Typhoon Ruby.

**Keywords :** 2013 Typhoon Haiyan, Recovery process, Philippine, 2014 Typhoon Ruby, Permanent housing, UN-Habitat

## 1. はじめに

2013 年 11 月にフィリピン国内に甚大な被害をもたらした台風ハイエンの発生から 2 年目に入り、被災地は緊急支援・被害把握等の緊急対応のプロセスを終え、中長期的な復興のプロセスへと移行している。

前回 2014 年 2 月に、筆者らは被災から 4 ヶ月目のセブ島北部およびサマル島の被災・復興状況について報告したが<sup>1)</sup>、今回は被災から 1 年目にあたる 2014 年 12 月に、改めてセブ島北部における住宅再建状況について調査した。

## 2. 国家としての 1 年目の復興進捗

### (1) 国家としての対応

国家全体の基本復興方針としては 2013 年 12 月に国家経済開発庁 NEDA より発表された復興計画案（通称 RAY）が存在していたが、今回その改訂版にあたる Reconstruction Assistance on Yolanda: Implementation for Results（通称 RAY2）<sup>2)</sup>が新たに発表された。この RAY2 の中では、NEDA 発表の RAY をもとに大統領復興支援室 OPARR より総括復興マスタープランが発表されることが明示された。また、復興事業期間を短期(2014)・中期(2015-2017)・長期と位置づけ、各セクションにおける復興目標値が示された。

### (2) 台風ルビーの影響

2014 年 12 月 1 日に台風 22 号、フィリピン名ルビー(Ruby)が発生し、これが再びハイエンと近いルート通ること、ハイエン被災地にあらたに被害をもたらすことが懸念された。フィリピン国内には 6 日に東サマル島に上陸し、ハイエンよりも北寄りのルートを通ることになった。今回の台風ルビーの接近にあたり、フィリピン全体で約 71 万 6,000 人が事前避難をしたとされている<sup>3)</sup>。最終的な被害は、死者 18 名、住宅被害 29 万 0,670 棟(一部損壊含)であった<sup>4)</sup>。

## 3. セブ島北部における 1 年目の復興状況

### (1) 台風ルビーの痕跡と被害

筆者らは今回、12 月 19 日にセブ島北部のカウイト地区、ダンバンダヤン市、ボゴ市のハイエン台風被災地を訪問した。これは先の台風ルビー上陸から約 2 週間後の時期であり、各地にて、強風対策として屋根のおもしとして使用された土嚢や住宅を固定していたロープが残されている状態であった(図 1)。これらの地域では、今回 2,132 戸<sup>(1)</sup>の住宅被害が生じている<sup>4)</sup>。

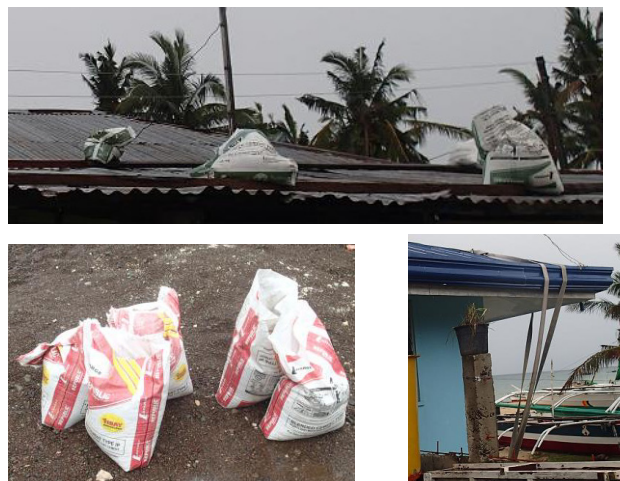


図 1 台風ルビー対策の痕跡(上/左下:屋根のおもし用土嚢, 右下:海岸沿い住宅の固定用ロープ※消防用ホースを再利用)

### (2) ハイエンで被災した建物の修繕状況

2014 年 2 月(被災後 4 ヶ月)の段階では公共施設、民間の商店等、多くの建物に瓦礫と被災のダメージが残っていたが、1 年目にあたる 12 月時点では、瓦礫は見当たらず、建物の修繕も進捗しつつあった。しかしながら、公

共施設の一部では修繕資金を十分に確保できず、部分補修にとどめている事例も見られた（図 2）。

### (3) 集団移転地の確保と恒久住宅の供給

2014 年 2 月(被災後 4 ヶ月)の段階では、簡易仮設住宅の供給（カウィットの事例）が行われているにとどまっている状況であったが、今回訪問したダンバンダヤン市では、集団移転地の確保と恒久住宅の建設が進行していた。図 3 は今回確認した UN-habitat によって供給された恒久住宅の事例だが、管理者によれば、台風対策を考慮し、軽量鉄骨造を採用し、屋根の構造も当初トタンを想定していたが、十分な強度を得るために急遽コンクリートに仕様変更されたものである。

また、同じくセブ島北部にあるボゴ市内には、台風ハイエン被災者向けに新たにヨランダヴィレッジ<sup>(2)</sup>と呼ばれる集団移転地が設けられた（図 4）。このヨランダヴィレッジにはすでに被災世帯が移り住んでいる。

## 4. まとめと今後の課題

今回は被災から 1 年目にあたる台風ハイエン被災地の復興状況について報告した。復興計画案が公表され、その具体的なプロセスが確定できていなかった前回の調査時の様子と比較すると、集団移転地の確保や恒久住宅の供給が進行していおり、復興事業の前進が感じられる状況となっていた。しかしながら、今後、被災者や沿岸部の居住者を恒久住宅へどのように誘導していくのか、移転先での台風襲来時の避難体制をどのように整えていくのかといった課題が残っており、ひきつづき復興プロセスを注視していく所存である。

### 注釈

- (1) ダンバンタヤン（Daanbantayan）およびメデリン（Medellin）周辺、人的・建物被害は両自治体の合計値で表示
- (2) ヨランダ（Yolanda）は台風ハイエンのフィリピン国内の呼称である

### 参考文献

- 1) 杉安和也、村尾修、葉袋奈美子、花岡和聖：2013 年フィリピン台風 30 号ハイエンの被災・復興状況報告 -2014 年 2 月時点での国家対応およびセブ島・サマル島における住宅復興支援-、地域安全学会梗概集、No.34, pp4, 2014.5
- 2) NEDA: Reconstruction Assistance on Yolanda: Implementation for Results, <http://www.neda.gov.ph/?p=3977>, 2015 年 5 月 6 日閲覧
- 3) NDRRMC: SitRep No. 07 re Preparedness Measures for Typhoon "RUBY" (HAGUPIT), 07 December 2014
- 4) NDRRMC: SitRep No. 27 re Effects of Typhoon "RUBY" (HAGUPIT), 19 December 2014

### 謝辞

本稿は、平成 25 年度東北大学総長裁量経費・災害科学国際研究所所長裁量経費「フィリピンにおける台風ハイエン被害実態の調査および復興支援」（研究代表者：東北大学災害科学国

際研究所：今村文彦）による支援をうけ実施した調査に基づく成果報告である。資料および調査に協力くださった政府関係者、被災者の方々、現地スタッフの皆様に記して謝意を表する。



図 2 公共施設の修繕状況（セブ島北部カウィット）



図 3 恒久住宅の建設状況（セブ島北部ダンバンダヤン市）



図 4 恒久住宅の建設状況（セブ島北部ボゴ市ヨランダヴィレッジ）